

## ヨーロッパにおける樹木根研究会 Woody Root Processes (COST Action E38) のご紹介

野口享太郎 森林総合研究所立地環境研究領域  
平野恭弘 森林総合研究所関西支所

現在ヨーロッパでは、樹木根の研究会 Woody Root Processes (COST Action E38) が年に2回のペースで開催されています (COST Action E38 についてはホームページ <http://www.cost38.net/> を参照)。この研究会はウェールズ大学の Douglas Godbold 博士とスイス連邦森林・雪・景観研究所の Ivano Brunner 博士を中心として立ち上げられたもので、ヨーロッパ諸国を中心に20ヶ国あまりが参加しています。研究会の主な目的は、1) 環境変動下における根の動態や生理作用に関する知見を深めること、2) 樹木根の研究手法を改善することであり、3つのワーキンググループ (WG) がアルテラ緑地研究所 (オランダ) の Ad Olsthoorn 博士 (WG1)、スウェーデン農科大学の Hooshang Majdi 博士 (WG2)、インスブリア大学 (イタリア) の Donato Chiatante 博士 (WG3) をリーダーとして、「環境変動の指標としての根 (WG1)」、「細根動態 (WG2)」、「根系構造モデル (WG3)」を対象とした活動を行っています。

この研究集会は、これまでにスウェーデン (2004年6月)、ギリシャ (2004年10月)、エストニア (2005年6月) の計3回が開催されました。参加者数が数十人の規模で研究対象が樹木根に集中していることもあり、これらの研究集会では研究発表だけでなく、議論に多くの時間を割いていることが1つの特徴として挙げられます。特にエストニアでは、WGごとにテーマを決め、その議論のために半日以上時間を割くというユニークなスケジュールで行われ、WG1では「Specific Root Length (比根長) の環境指標としての有効性」、WG2では「細根動態研究の問題点 (細根の定義、サンプリング手法など)」、WG3では「側根・不定根形成に関わる問題点」など、興味深い話題について意見が交わされました。議論の結果、ある程度方向性が見えてきた問題も收拾が付かなかった問題もありますが、このような議論を通じて、樹木根の研究における1つの潮流のようなものができていくことが予想されます。

参加者の多くはEUを中心とした研究者ですが、毎回数名の招待講演者も参加しており、ギリシャの会議では、ミシガン工科大学の Kurt Pregitzer 博士や西オーストラリア大学の Pauline Grierson 博士、エストニアではアルゴンヌ国立研究所 (アメリカ) の Roser Matamala 博士やオカナガン大学 (カナダ) の Melanie Jones 博士などによる講演が行われました。このように、樹木根研究の技術面に関する深い議論だけでなく、各国の先端研究についての情報が得られるのも、この研究集会の魅力の1つと言えます。

今後の研究集会開催については、現時点では2005年10月にイスラエル、2006年6月にフィンランド、2006年秋にポルトガルで開催される予定となっています。ただし、これらの予定にはまだ流動的な部分も残されており、具体的な案内については数ヶ月前にならないと公表されません。なお、2007年9月に第4回 International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Woody Roots がウェールズ大学で開かれますが、この会議で各WGの取り組み結果が研究発表される予定です。樹木根の研究に興味のある方は是非一度参加してみたいかと思いますが、詳細については筆者までお問い合わせください。

連絡先 野口享太郎 〒305-8687 茨城県つくば市松の里1  
森林総合研究所 立地環境研究領域 養分環境研究室  
電話: 029-873-3211 (内線 357) FAX: 029-874-3720  
E-Mail: kyotaro@affrc.go.jp  
平野恭弘 〒612-0855 京都府京都市伏見区桃山町永井久太郎 68 番地  
森林総合研究所 関西支所 森林環境研究グループ  
電話: 075-611-1201 FAX: 075-611-1207  
E-mail: yhirano@affrc.go.jp